

旅とアマチュア無線

JH3GAH/VK6GAH 後藤 太栄

旅にはいろいろな目的があります。旅とアマチュア無線が組み合わせられるとより楽しく、そして安全な旅が可能です。2003年(平成15年)10月下旬から11月上旬にかけて西オーストラリアの一人旅に出かけました。小さな無線機とアンテナをバゲージに詰め込んで旅に出る醍醐味はハムだけが味わえる旅のユニークなスタイルです。持参した無線機とアンテナでホテルやアコモデーションから電波を出すのも面白いのですが、現地のハム仲間との再会や出会いも素晴らしいものがあります。今回の旅では事前にクラブ員の荒川さんに昨年のハム関係のコンベンションで知り合ったという方の紹介を受けていました。到着後、アマチュア無線の免許は取得したものの、持参した機器に不具合があり、どうしたものかと思いがぐねっていたところ、Ben Koh(VK6XC)さん



というパース在住のハムに助けられました。彼は故障した機器を貸してくれた上、気ままな旅の計画にアドバイスをしてくれたり、自宅に招いて家族とBBQで歓待してくれました。お陰で現地の生活文化に触れることもでき、西オーストラリア州内を安心して旅することが出来ました。(いつでも彼に連絡出来るという安



心感が旅を大胆にダイナミックにしてくれました。)3日間でレンタカーを2000km近くも駆り、通常なら訪問することのない町や名所を訪れ、会うことのない人達に会うことができました。これまでに約30カ国訪問していますが、その多くの国で何らかのかたちでハムという趣味と関わった(を利用した)旅をしています。(笑)

昨今、本来のハムの醍醐味が社会的にも個人的にも失われた感がありますが、私が海外で受けた同胞(同人)の恩に報いるためにも、日本を訪れるハムのサポートは続けていきたいと思っています。

SEA NET CONVENTION

JA3UB 三好二郎

SEA NETはSouth East Asia Networkの頭文字から由来し、東南アジアのハムが中心になって毎晩アマチュア無線によるロールコールを行い友好親睦を図ると共に航行する船舶にメディカルトラフィック等の必要が生じたときにサポートや情報活動のボランティア達が一同に会するということが1971年にペナン島に集まったのが第1目のSEANETコンベンションです。以来開催地はタイ、シンガポール、フィリピン、マレーシア、インドネシアと東南アジア各国持ち回りで開催されてきましたが諸般の事情から開催困難になった国もあり、一方東南アジア以外からの参加者も増えてきたことから東南アジア以外の国でも開催されるようになり昨年はオーストラリアで開催されました。

ここでもアツと驚く出会いが

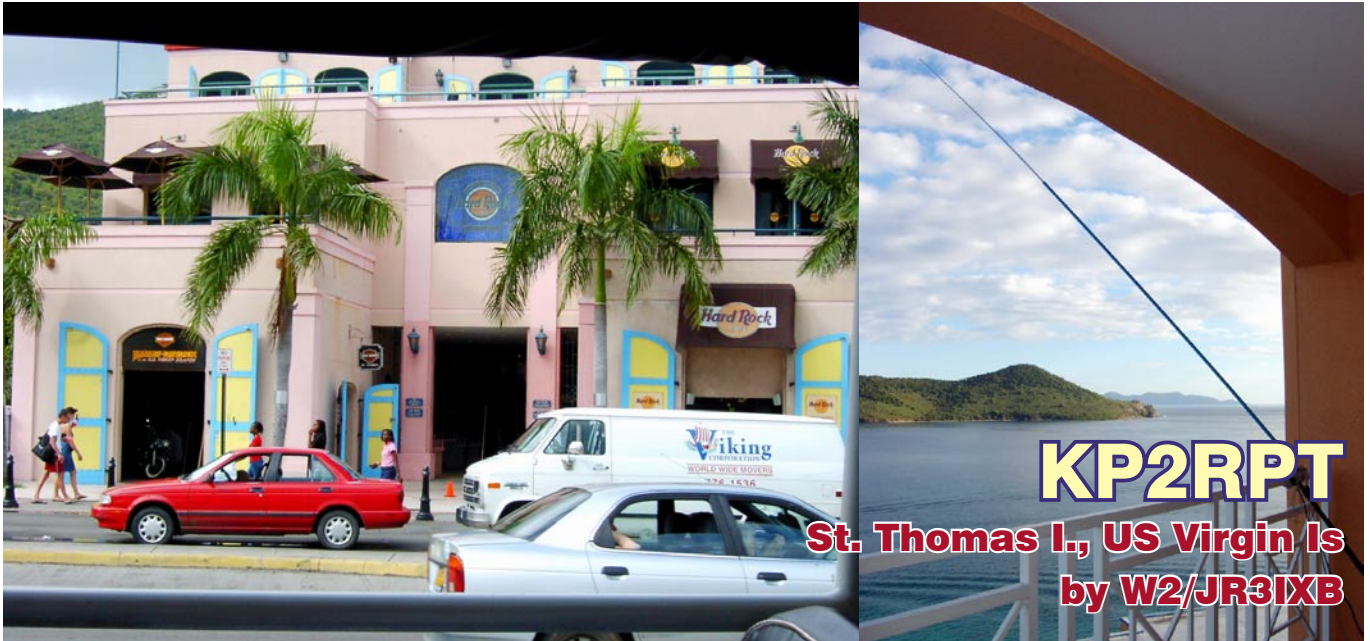
私は1980年にフィリピンで開催された第10回SAENETコンベンションのコッミティ(小生はPhilippine Amateur Radio Associationの終身名誉会員です)として準備打ち合せのために度々

フィリピンへ行っていました。その前年の5月には在住していた尼崎市と姉妹都市提携しているドイツのアウグスブルグ市をアマチュア無線での交流団長として訪問することになり、当時よく交信していた経由地のフランスの女性ハムF6CYLアンにも会いました。翌年マニラで会議の後、友人DU1NRSラリーの家に来ていた西洋人と会いました。ラリーは彼のことをフランスから来たハムでF6DOXだと紹介してくれましたので「去年フランスへ行ったときに親しくしているF6CYLに会ったけどアンタは彼女を知っているか?」と言ったところ何と「アンは僕のワイフだ」と返事が返ってきました。居合わせた一同びっくり仰天、何故か私は暫くシドロモドロになりました。その後は和気藹々の雰囲気の中でSEANETコンベンションの話等で盛り上がり、翌1981年にインドネシアのジョクジャカルタでのコンベンションには是非お出でよ、ということになり彼F6DOXマイクとはインドネシアで再会しました。

以上は四半世紀ほど昔の話ですが先日マレーシアのジョホーバルでの第31回コンベンションを終えて帰国したところです。その模様は一緒に参加したJE3BEQ宮本さんの記事をご覧ください。



JH3GAH/VK6GAH



KP2RPT

W2/JR3IXB 沖正典

11月20～24日、米国領バージン諸島セント・トーマス島に家族旅行に出かけました。日本から見れば憧れの(?)というより単に遠いカリブ海ですが、仕事の関係で米国滞在中の我々家族にとっては、沖縄やグアム・サイパンへ行くような気軽さです。無線の道具一式も荷物に詰めました(もちろんそのために行くのですから)。ホテル選定の条件は、プールがあってビーチに近く、料金が安くて北向き(JAは約340度方向)で高層で屋上が使えてetc.ですが、全てを満足する所はなかなかありません(当たり前?)。なんとか見つけたホテルはホームページを見る限りなかなかロケもよさそうだったので早速予約しました。

(<http://www.wyndhamvirginislandshotels.com/wsbrs.htm>)



最初に通された部屋は3階(海岸沿いの建物の最上階)で確かに海に面してなかなかのロケだったのですが、屋上は使えないと言われたため、海岸沿いでもなくともよいからという文句(?)を言って最上階の7階に変更してもらいました(米国は何でも言うたもん勝ちですHi)。全て無線のためでしたが、Xや2ndも7階の方がさらに眺めがよくなったと好評でした。

ループやExtended Double Zeppなどワイヤー張り巡らし型のANTの準備もしていたのですが、屋上が使えなかったため、結果的にセットアップできたのは写真のような1/4λの接地型アンテナです。いくら水面反射はよく飛ぶと言われていても果たしてJAまで飛んでいくか不安でした。少しでも電波がよく飛ぶようにと短縮コイルもATUもなしで、只々共振するセッティングを見つけました(80mのみ短縮コイルとATUのお世話になりました)。3日目あたりにはMFJ259(SWRアナライザー)なしでもバンドチェンジがほぼ一発できるようになりました(Hi)。最初の夜、このホイップ(4m)の先に6mほどのワイヤーを継ぎ足した40m用フルサイズ1/4λでEUから、全く途切れることなく、こちらが疲れてQRTするまで呼ばれ続けましたので少し安心しました。

(一応家族旅行ですので)運用は朝と晩の限られた時間であったこともあり、トータルQSOは約300のみでした。その内JAとは、88QSOできました。JAとの内訳は40m:5(CW), 20m:1(SSB:JA3BOA),

15m:60(CW)/22(SSB)です。15mSSB(JAの23日朝)ではNG CONDXの中、JA3BOA/乾さんに抜群の耳でサポートしていただき、22局と交信できました。ほとんどノイズしか聞こえない中、JAとのパスが通る一瞬に出くわすことができ、ラッキーでした。短時間でフェードアウトするさまは感動的(?)でもありました(Hi)。なお、翌日の15mCWでは



JA3PYC/山本さんにバケットに上げていただいたおかげで、弱い信号ながらも盛り上がり、JA全エリア60局とQSOできました。が、この日も短時間のパスでした。乾さん、山本さん、サポートありがとうございました。

EUや西海岸はこんなアンテナでもまったく問題なかったのですが、やはりカリブからJAは遠いと感じました。

お呼びいただきました各局どうもありがとうございました。FB DX & 73!



Merry Christmas



メンバーのシャック紹介 JP3AZA

今年でアマチュア無線を始めて45年目になり、シャックの変遷にも一つ一つ思い出があり、無線機器類もその時に何に熱中していたかを物語るものであろうと思っています。アマチュア無線局は仕事として運用するものではなく、あくまで免許を受けている人の趣味で運用するところから、その設備も運用しやすいように自分本位で設備するもので、使いやすいシステムが構築できたときは凄く嬉しいですね。また、使いやすいシステムは存続時間が長くなり、振り返るとその思いでも大きくなります。とは言いながら



CW運用デスク

時代の流れと共に新しい無線機器が現れ、QSOしやすい設備は選り変わっていくものと思っています。そんなこんなで現在私の構築中の無線設備の流れの中では一瞬のものであろうとは思いますが、今の時点では短波を使用している海岸局、大型船舶局などの業務用無線局に使用されている無線機器とそのシステムに使用されているブレイクインシステムに面白さを感じ、JP3AZA局用の設備を業務用無線機器で構築しようとしています。このシステムは、その構成機器組み合わせの自由度が大きく、殆どの場合には結線を変更することなく目的を達することが出来ます。現時点ではシステムとして全設備が稼動している訳ではなく、まだ整備中なので全稼動するのはもう少し先になりますが、業務用無線機器をアマチュア無線に使用するための基本的な改修作業は完了しており、あと一歩と言った段階にきています。これら業務用の無線機器は非常に安定度が良く、またS/N比の良い機器でもありますのでSSBでのQSOには最適です。今回、使用予定のJRC製業務用SSBトランシーバー JSB-200のアマチュア無線用への改造に関してはニュースレターの9月1日号に掲載されていますのでご参照ください。ただCWの運用は業務用の無線機器を使用するより、アマチュア無線用として製作された機器のほうが使いやすいと思っています。性能とは別に、業務用無線機では通常

リレー制御のフルブレイクインなので、ブレイクインリレーの撒き散らす騒音の大きさは家庭内で運用しますと家族全員の聾聵を買う結果となること請け合いです。エレキも操作性を重要視されるものの一つです。キーヤーのMM-3(



SSB運用デスク

モールスマシン3)も慣れ親しんだ機器の一つでもう15年近く愛用しています。最近のトランシーバーにはほとんどの機種にエレキが内蔵されていますがいずれも機能が中途半端で結果的には外付けキーヤーを手放せないのが現状です。無線機器が新しい機器と入れ替わると、操作する者としては混乱します。そんなことから機器は新しくなっても操作には共通性のあるような機器が選択され、慣れ親しんだ習性は簡単にはとれないものです。はたして今度の設備はいつまで私と付き合ってくれるのか楽しみです。



JAIG2000の思い出

JA3AER 荒川泰蔵

日本で初めて開かれた JAIG (Japanese Amateur In Germany) の年次大会は 2000 年の 4 月でしたからもうかれこれ 4 年近くになります。会場は富士山が見える伊豆半島の湘南国際村センターでドイツからの 18 名を加えて 70 名余りが集まった大会でしたが、その後ドイツからの一行は京都や奈良の観光を経て 4 月 25 日の夜、大阪国際交流センターのフロンティアクラブでラジオクラブのメンバーを中心とする関西の有志とのミーティングを持ちましたのでご記憶の方も多いのではないかと思えます。私は 4 月 21 日に湘南国際村センターに入り、日光や東京観光を終えたドイツ人一行を迎えるところから参加しました。翌朝 22 日は快晴に恵まれ電車で鎌倉へ、そこで待っていてくれた参加者達の案内で鎌倉大仏や鶴岡八幡宮を見学し、三々五々それぞれの好みの店で昼食をとりました。そして再び湘南国際村に戻り、夕刻からの年次大会の準備が進められました。大会には JARL から原会長と海老沢専務理事が駆けつけて下さり、励ましのメッセージを頂きました。主宰者 DF2CW 竜岐さんの開会挨拶から始まった大会ではドイツ語への同時通訳が行われましたが、ドイツ人達は VHF のトランシーバーでその同時通訳に耳を傾けていました。大会は 70 数名が参加し、立食形式の夕食会を兼ねて和やかに進行し、メンバー

が演奏するピアノとバイオリンの伴奏で日本とドイツの歌の合唱などもあり楽しいひと時を過ごしました。翌 23 日はドイツからの一行と共に、貸切りバスで富士箱根国立公園へ出かけ、芦ノ湖で観光船に乗ったりして遊んだのち小田原に投宿、翌朝の関西入りへ備えました。4 月 24 日の朝、関東のメンバーとは別れを告げ新幹線で京都入りしました。京都駅で貸切りバスを用意して待っていてくれた JA3QUU 西間さんの案内で、仁和寺、金閣寺、京都御所、清水寺などを見学しましたが、修学旅行の学生さん達との国際交流も含め春の京都を堪能しました。夜



は祇園の料亭で舞妓さんを迎えての夕食会を皆で楽しんだのも懐かしい思い出ですが、これには関西から多くのハムの参加がありました。翌 25 日、京都から奈良へ貸切りバスを走らせ、奈良で待っていてくれた JR4IMT 松本さんの案内で、東大寺の大仏を拝観後、お弁当を食べながら奈良公園の鹿と遊び、天理にあるシャープの歴史ホールと技術ホールを見学して法隆寺に向かいました。世界最古の木造建築といわれる法隆寺の境内の広さに少々疲れを感じましたが、大阪での投宿先アウテナホテルで汗を流し、いよいよ「大阪国際交流センター」での夕食会を兼ねたミーティングに出かけました。会場の「フロンティアクラブ」には JR3MVF 三好さん達、多くのローカルのハムが準備をして待っていてくれました。JK31YB 西さんのドイツ語による歓迎挨拶に始まり、食事をしながらの賑やかな歓談がはじまりました。途中、クラブ局 J13ZAG の見学や、三好さんご夫妻や西間さん達が準備してくれたビンゴゲー

ムも参加者を楽しませましたが、ドイツ人達は最後の夜とあって 2 次会に出かけるなどこの境界で最後の日本を楽しんでいました。勿論日本は初めてというドイツ人達が多く、このように各地の観光を兼ね



てローカルのハムたちとの国際交流を図られたのですが、その時の日本の印象が良かったのかまた日本での希望があり、来年(2004年)は再び日本での開催が決まりました。主宰者の DF2CW 竜岐さんが献身的に走り回り準備を整えられ、約 20 人のドイツ人を率いて 3 月に来日されますが、今度は関西でとの希望で、「大阪国際交流センターラジオクラブ」が月例会を兼ねてそのホストを引き受けることにしました。開催までの世話役は JA3UB 三好さんを責任者に、JA3QUU 西間さん(JAIGメンバー)と私の 3 人で努めさせて頂きますが、大会は 2004 年 3 月 26 日(金)の午後 6 時から、「天王寺東映ホテル」で開催の予定をしております。京都観光や大阪観光など大会前後の行事を含めて、関西での行事には多くのメンバーの協力が必要となりますので宜しくお願い致します。行事の案内と参加申込書は「大阪国際交流センターラジオクラブ」のホームページに掲載していますのでご覧の上是非の参加をお待ちしています。来日されるドイツ人達には、今回も日本の良い印象を持って帰って頂くために、是非皆さんのご協力をお願い致します。

BIRD43 通過電力計の尖頭値指示への改造

JP3AZA 河田至弘

無線業界では有名な BIRD-43 型の通過電力計ですが、メーター指示は平均電力のみの指示であり、SSB 運用時には平均電力からたぶん尖頭値はこれくらいだろうと想像しなければなりません。以前に QST 誌に掲載されたコリンズ社の通過電力計を尖頭値指示型への改造記事を JA3DYU 太宰さんより頂いたことに端を発して BIRD-43 型通過電力計を尖頭値指示型に改造し好結果を得ましたのでここに報告します。

1. 回路の概要と問題点

この回路は SSB 波のエンベロープの尖頭値を平均値型指示計で読み取ろうと言う主旨のもので、オペアンプを使用したピークホールド回路を筐体内に組み込むものですが、コリンズ社のもと同じ回路では巧く動作しないので BIRD-43 に適合するよう回路変更が必要です。最大の問題点はメーター感度でコリンズ社のは $200 \mu A$ FS であるのに対して BIRD 社のも

のは $30 \mu A$ FS と非常に感度が良いので、この感度差に伴う各部の動作を補正する必要があります。

メーターの感度差による一番の問題はピークホールド回路で、メーター感度の良くなった分だけ動作電圧が小さくなり、もろにダイオードの 0V 付近のカーブの曲がりによる指示誤差が大きくなる影響が現れます。このためゲルマニウムダイオードを使用する(オリジナル文献ではシリコンダイオードを使用していた)ことにより誤差を軽減し、また、メータードライブのオペアンプの出力側抵抗減衰器を大きくして見かけ上感度の悪いメーターを使用しているような動作をさせることにより改善しています。

原回路ではこれ以外にメーターの 0 点が合わない場合があり、これを補正する回路も組み込んであり、尖頭値と平均値切替えには 3 回路のスイッチを使用して消費電力を節減するため尖頭値表示の時のみ電池の電源が入るようになっています。全回路図を第 1 図に示します。

2. 調整方法

この回路においては平均値指示側にスイッチを

倒した場合は元の回路のままであり、この状態は既に校正済と考えられ、また尖頭値指示側に倒したとき CW などの連続キャリアー信号は尖頭値指示回路を通していても平均値と同じ指示値になるよう調整します。

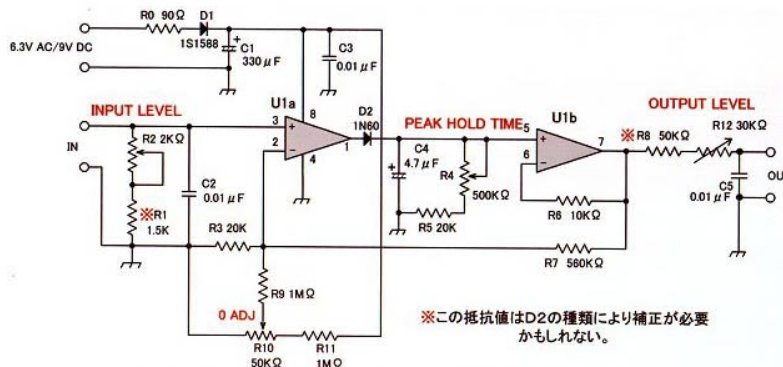
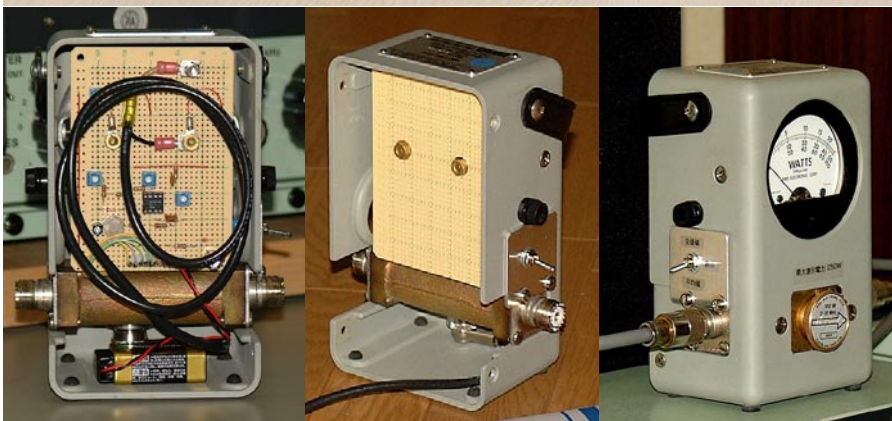
調整順序は以下の通りです。

1. スイッチを尖頭値側にして無入力状態で R10 によりメーター 0 点を合わせます。
2. R12 を仮に中央付近にセットします。
3. キャリヤーを出し R2 を調整して平均値と同じ指示になるよう調整します。合にくいときは R12 を少し動かして再度 R2 を調整してください。もし、R2、及び R12 の調整で巧く合わないときは R8 及び R1 の値を微調して下さい。
4. SSB 波出してメーターの振り方が VU 計風になるよう R4 を調整します。
5. 最後に再度キャリアーにしているいろいろな電力値で平均値と尖頭値がほぼ合っているかどうか確認します。(±5% くらいの範囲にはいっていれば OK でしょう)

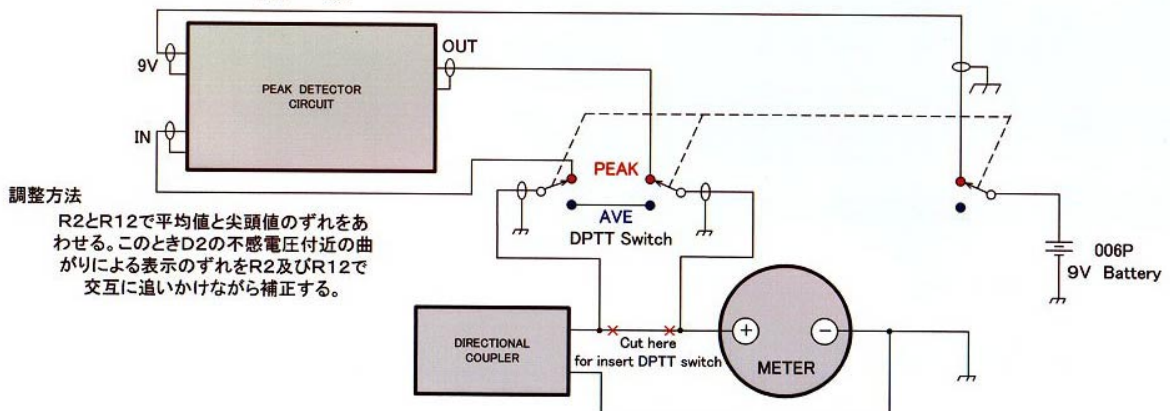
3. 使用結果

使用結果は元々の平均値指示を基準として、その表示は最大 100W の指示スケールで 25W、50W、100W の各電力値を測定の結果概略誤差 ±5% くらいの範囲に入っています。また、SSB の運用においてもトークパワーの尖頭値を表示しますので、音声のピークでは平均値が小さくても尖頭値ではフルパワーが出ていることが一目瞭然に判り、オペレーターの精神衛生上非常に良い状態で運用出来るようになりました。

この回路は 1. の項目における注意点をクリアすればコリンズ及び BIRD 社と同様の通過電力計に応用できます。



PARTS LIST	
R0 90Ω	C1 100μF to 470μF
R1 1.5KΩ	C2 0.01μF
R2 2KΩ POT	C3 0.01μF
R3 20KΩ	C4 4.7μF
R4 500KΩ POT	C5 0.01μF
R5 20KΩ	D1 1S1588
R6 10KΩ	D2 1N60
R7 560KΩ	U1 LM358, μPC358 etc
R8 50KΩ	
R9 1MΩ	
R10 50KΩ POT	
R11 1MΩ	
R12 30KΩ POT	



調整方法

R2とR12で平均値と尖頭値のずれを合わせる。このときD2の不感電圧付近の曲がりによる表示のずれをR2及びR12で交互に追いつけながら補正する。

スリルとサスペンス 私の SEANET Convention 前夜祭

JJE3BEQ 宮本誠一

ウァームアップディナーで荒川さん、三好さんご夫婦に多くの Ham を紹介して頂き、また僅かではあるが Ham 復帰後のこの一年間に交信した人とのアイボール QSO もできた。ディナーそのものは延々と続いていたが、期待していた以上の収穫にこの辺が潮時と考え、会場を出て最上階の特別局 9M0SEA の部屋に行った。そこに Ken が入ってきて特別局の状況を一望し、私にワインを飲むかと話しかけてきた。私は眠気もあったが即座に「イエス」と答えた。そのあと Ken は Jani と特別局の設備がどうのこうのと話し合っていたので、暫く待っていた。Ken から「レッツゴー」の声がかかり、私と Jani は彼の後に従った。Hotel を出て暫く歩き何処かの駐車場についたら、そこにエンジンをかけた小型車が我々を待っていた。車の中には若い夫婦と二人の可愛い男の子が乗っていた。Ken はその子供達に何やら声をかけて喜ばせ、私と Jani に車に乗るよう促した。大の男二人が乗るのも窮屈なのに Ken も乗るつもりであることがすぐ分かり、「ちょっと無理」と言ったが聞き入れてもらえず無理やり押し込まれてしまった。私は子供達が大丈夫かと気が気でなかったが、Ken も Jani も荒っぽいことを気に止めない風であった。とにかく私は男 3 人のスキンシップ状態に堪えた。そしてもう少しの我慢と自分を落ち着かせたが、3 つ 4 つと町を通過して 30 分を過ぎるとさすがに不安になってきた。何故 Ken に何処に行くのか聞かなかったのか、長時間別行動するならば荒川さんらに一言しておくべきだった等反省の念が頭を過ぎった。車は何処かの小さな町に着いてやっと止まった。そしてあるビルの中に入り、エレベーターで何階か上へ上がった。閉まっている事務所風の入り口を Ken が開けている間、私はその場所を何処か知るため必死になって周囲を見渡し、そこが産婦人科医院であることを看板から理解した。Ken は直営の看護婦を呼び寄せ、私たち 2 人を人気がない手術室に連れ込んだ。私はこの時、Ken と Jani に力づくで手術台に縛り付けられる恐怖映画のシーンを想像していた。とにかく一刻も早くその部屋から出たかった。Ken はそんな私の心中を知ってか知らずか、Jani に指示をして何かを探していたが目的の物は無かった。Ken は次の所に行こうと言い、我々は病院を後にし駐車場に向かった。私はその時フットと大きく深呼吸をし一息ついた。駐車場にはさっきまで乗ってきた車の姿は無く、Ken のベンツ

で次の知られざる目的地に向かった。ここまで来て今更何処に行く?と聞いても、勝手の分からない異郷の地では如何するすべも無く、ここは流れに身を任せることにした。と言うよりも未知の遭遇に対する一種の期待感が湧いてきた。一方 Jani は静かな男で自分からは何も言わなかったが、Ken の意図は良く理解しているようであった。今度もかなり走った。時間は 22 時をとくに過ぎていた。車は、とある郊外のインド式大邸宅の鉄扉の前で止まった。そして鉄扉は音も無く開き、車は暗闇の邸宅の中に吸い込まれていった。Ken は家の玄関を開け、私と Jani を招き入れた。夜のためか家族の姿は見えなかったが、大理石の玄関で靴を脱ぎ、二回にある彼のシャックに入った。そこで再び目的物探しを開始し、使用できる状態にあったリグ、マイク、電源その他をバラし持ち出せるようにした。そして Ken はアンテナを見たいかと私に聞いた。「もちろん」と答えて庭に出て照明のついた庭園の階段を登りつめると、星明りだけの暗闇の中に薄すらと大きなアンテナのシルエットが浮かんだ。9 エLEMENT のログペリで、すぐ近くには業務用のマイクロウエーブの鉄塔が並んで立っていた。両アンテナの干渉は無いと言う。彼はリニアを使わない、必要が無いそうである。アンテナを見せてから、彼は酒を飲もうと言い出した。もう 23 時近かったが、もともと今回のハブニングはワインを勧められたことに端を発していることから断る理由は無い。殆ど空になりかけの、彼曰く取って置きのスコッチ 2 本を勧められた。私はレギュラータイプばかりをお代わりしたが、スモークタイプのスコッチを私に勧めようとしているのに気がついた。このスコッチは燻製の匂いがするが彼の言うとおり美味しいお酒で、私が気に入ったことを彼は大変喜んだ。Jani は酒を飲まないが、どこか荒野の七人のチャールズ・ブロンソンに似ている物静かで好い男だ。Ken、Jani と気安く呼んできたが、今まで QSO の経験も無く今夜初めて会った人たちである。Ken は今回のコンベンションの全責任者の Dr. Ken Singh(9M2KN)、Jani は彼の良き協力者である Mr. Jani Kusmulyana(YB0US) である。彼らは今夜、私をまるで以前からの親しい友人であるようにごく自然に接してくれた。Ham の趣味を通じて、国・人種・階層・イデオロギー等に関係なく新しい友情をあっという間に築けることを、今夜身をもって体験することができた。素晴らしい、まさに King of hobby の一側面と言える。Ham でない人から「ワインは?」と声をかけられたら、とても気味悪くてこんな体験はできなかったであろう。Ken さんのお陰で今回特別な経験ができたことに心から感謝すると共に、Jani さんにも有難うと言いたい。また会えることを心から望んでいる。



大阪国際交流センターラジオクラブ

JI3ZAG

Web:<http://ja3.net/ihouse>

Newsletter

http://www.ja3.net/ji3zag_nl
会報を自由にダウンロードすることができます

ロールコール

毎週土曜日 9:00JST@14.160MHz

月例会

大阪国際交流センター
毎月第 2 金曜日

